

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 462 事業名 自然観察の森管理運営事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		農林水産業費	
	項		農林緑花費	
	目		四季の郷公園事業費	
	大事業		四季の郷公園事業	
事項		四季の郷公園管理運営事業(自然観察の森)		

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	4	自然環境・資源循環型社会の形成
施策	2	自然環境の保全と創造
取組	4	自然とふれあいの推進

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	H	~	H
関連個別計画			
担当課・担当課長(Tel)	農林水産課	寺田 陽一(435-1049)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず	○
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実			
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実			
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実			
その他		その他		その他			

1 事業概要及び実施内容

事業目的(「誰・何」をどういう状態にする)ための事業か)		事業内容					
事業概要	身近な自然環境の中で昆虫、野鳥等の小動物及び植物と触れ合い、これらの観察を通じて自然への理解を深め、自然保護思想の普及及び向上を図る。		和歌山市明王寺58番地のネイチャーセンターを中心に動・植物の標本、写真等を展示、また幼児対象遊具を併設し、より身近に自然環境を感じていただくとともに、有料の竹林の観察・タケノコ掘り体験や無料のイベント等年間約25~30回のネイチャーイベントを実施する。 申し込みは、不要のイベントも多いが、定員があるイベントについては、電話による受付で、申し込みの多数が予想されるイベントについては、往復はがきによる抽選を行っている。 また、施設の維持・管理については、指定管理者に行われている。				
	実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		竹細工教室等を年間25回開催した。(参加者数1497名)	竹細工教室等を年間25回開催した。(参加者数1499名)	竹細工教室等を年間25回開催した。(参加者数1500名)			

2 事業コスト

事業費 千円			平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		17,325	17,195	17,262	17,216	17,319	17,280	17,999			
	伸び率(%)		-	-	-0.4%		0.3%		3.9%			-100.0%
	人件費	常勤職員	4,527	4,658	4,527	5,370	4,527	4,688	4,527			
		非常勤職員	3,036	2,885	3,036	2,885	3,036	11,103	3,036			
	小計		7,563	7,543	7,563	8,255	7,563	15,791	7,563			
	国庫支出金			0								
	県支出金			0								
	市債			0								
	その他			6		8	17	17				
一般財源(税等)		17,310	17,189	17,262	17,208	17,302	17,263	17,262				
所要人数	常勤職員	0.99	0.61	0.99	0.7	0.99	0.62	0.99				
	非常勤職員	1.48	1.41	1.48	1.41		2.16	0				

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
活動指標	イベント回数					年度目標値	25	25	25	30	
						実績値	25	25	25		
	単位	回	全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
							年度目標値				
						実績値					
		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度					
成果指標	イベント参加者数					年度目標値	2000	2000	2000	2000	
						実績値	1497	1499	1500		
	単位	人	全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度	74.9%	75.0%	75.0%	
							年度目標値				
						実績値					
		全体目標値		全体目標達成度		年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)
	B 見直しのうえで継続 C 終了 D 休止 E 廃止	B 2 コスト削減・成果上昇 B 3 類似事業との統合 B 4 外部委託導入・拡大 B 5 受益者負担の適正化 B 6 終期設定 B 7 その他効率化	
A			

担当課評価の根拠	現在、子供たちが、自然環境について実際に体験学習し、遊べる機会は、少なくなっています。本市においても、子供たちが自然環境について安価で、しかも身近に学べる施設は皆無です。よって事業の必要性があります。
「見直し」 「改善」案  ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	